Staff Blog

園長室ブログ

身近なところに野生動物が…

新年明けましておめでとうございます。平成22年はトラ年、かみねのベンガルトラ「アキラ」も、皆さんが健やかで楽しい1年を送れるようお祈りしています。

例年通り、かみね動物園は新年2日から営業しましたが、平成22年は3連休の11日までで昨年に比べ倍以上の人でにぎわいました。新しい「ふれあいプラザ」やゾウのグランドが整備されたこともありますがほんとうにうれしい限りです。ライオン3兄妹も相変わらずの人気です。ゾウのエサやり体験を始め、ふれあい広場ではウサギやモルモット(テンジクネズミ)などを抱っこするちびっ子たちで大盛況でした。

動物園の動物たちはたくさんのお客様に喜ばれながら幸せな年が明けましたが、一方動物園の外の世界では、動物たちにとって苦難の幕開けなりました。地元の茨城新聞（平成22年1月11日付）には「農作物の獣害急増」との見出しでイノシシやハクビシンによる農家からの被害報告があとを絶たないことが報じられていました。動物園にも平成21年の暮れごろからイノシシが出たとの情報が多数寄せられています。市では、生活安全課、消防、警察、農林水産課などと連携をとり農作物被害と市民生活の安全確保の観点から対策を講じています。しかし、動物園でも一緒になって現場に向かいますがなかなか有効な手段がないのが実情です。
まず、通報を受けてから駆けつけても遅いということ、仮にその場にいても捕獲が難しいということ、捕獲して山に帰したとしても同じことが繰り返されるであろうこと、鳥獣保護法により条件付きで狩猟などの捕獲が認められているものの住宅地などでは難しいこと、などがあげられます。最近では、ニホンザルの出没例も報告されていますが、こちらも有効な対策はないのが現状です。

しかしこうした騒動は人間社会での話で、動物側にとってはさらに深刻です。何も人間に被害を与えるつもりで出てきているわけではなく、森林の減少や冬場の餌の枯渇などによりやむなく里へ降りてきているのです。また、ニホンザルなどは基本的に母系社会のためオスが群れを離れる習性があります。それが時として離れザルやひとりザルなどとして目撃情報が寄せられたりします。つまり自然の摂理として行動する動物たちは何も悪くはない、しかし農作物を荒されたり家に押し入ったりと人間社会のなかに入ってきてもらっては困る、というところがこの問題の難しいところだと思います。

ただ、一つ言えるのはこれまで見たこともない動物がいきなり住宅地に現れ驚いた、という部分もあると思います。つまり、動物園などでしか見たこともないイノシシやタヌキやハクビシン、サルなど本来の生息域ではなくても身近な日常生活の中で見てしまった驚きが通報のなかには含まれていると思います。もちろんこうした動物が直ちに人を襲うということはないわけですが、それすらもわからないのが普通の人の感覚でしょう。ですから、こうした動物が出てきただけで決してあわてないでください。餌となるものがなかったり、そこに人間がいるというだけできっと彼らはそこから離れていくと思います。それでも何か悪さをしたり異常な行動が見られたら通報してください。

インドネシアではトラが人を襲うといった被害が深刻で、人を救いながら、同時に絶滅しかけているスマトラトラをも救おうと、トラの生息区域の集団移転案が浮上しています。人間の生命を脅かす動物でさえ共存していかなくてはなりません。平成22年は名古屋でCOP10

（生物多様性条約第10回締約国会議）が開かれます。これからの地球環境を考えるうえでも、ごく身近なところにたくさんの生き物が住んでいるということをこの際、真剣に考えてみましょう。

（平成22年1月14日　園長　生江信孝）

新年のゾウはたくさんのお客さんで

あけましておめでとうございます

2010年1月14日

過去の一覧

令和6年

令和5年

令和4年